

## 10月21日 Country Report Group1

### 【カンボジア】

まず初めに、MENGさんが機関（スポーツを通じた教育を行っている）で担当している仕事について説明しました。彼女の主な仕事は状況分析と教育分析です。

発表の本題として、まず初めにカンボジアの社会・経済状況について、地理的要素やGDP・国旗について説明されました。

2つ目に、カンボジアの教育セクターと教育の質に関する重要な問題について、カンボジアの典型的な教育課程は6-3-3年生の構造となっており、最初の9年間は強制的であること。生徒のパフォーマンスは彼ら自身の能力はもちろん、家庭状況や教員の質にも要因があり、この教員の質について詳しく説明されました。教員の質の低さは、クメール・ルージュによってその多くが殺されたことが主な原因です。教師を目指す者は高校を出て2年間教員養育センターに通いますが、この2年という期間は十分ではありません。また、カンボジアを含める発展途上国は教員の「量」より「質」に目を向けなければならないことが説明されました。

3つ目に、現在行っていることについて説明されました。政策形成におけるパートナーシップ、地方分権、英語とフランス語から英語への転換を試みています。また、2018年（基準）と2023年（目標）を比較した教育政策マトリックス図の総括表が示されました。政府は、コンピテンシーベースのカリキュラムからコンセプトベースカリキュラムに転換を図ろうと考えていること、また、ICTの普及を目指していることが強調されました。最後に、カンボジアにおけるエビデンスに基づく教育政策策定に関わる8つのプロセスが示されました。



質疑応答では、コロナ禍の中学校における状況・問題を、具体的な例を挙げての説明を求められました。(特にICTについて) 回答として、回線が遅く、都市や街に住んでいる子のみが利用できる状況であることや、一部の教員しか知識がなく、利用できる機器も少ないことなどの問題が取りあげられた。

## 【パプアニューギニア】

一つ目のプレゼンテーションでは、まず初めに、PNG についての簡単な紹介がありました。その中では、文化、地理的特徴、言語などの説明がありました。また、JICA と PNG の間には、教育の面で強いつながりがあることも紹介されました。

メインとなる二つ目のプレゼンテーションでは PNG の教育について説明されました。まず初めは歴史教育に関するものでした。彼女によると、PNG の教育システムは、植民地時代や教会の管理下にあったといいます。PNG はオーストラリアやイギリスの植民地時代から続いてきた成果主義的な教育から、基準主義的な教育へ転換していると説明されました。その後、3 つのパートからなる教育セクションプランについて説明された後、「幼児教育」「一般教育」「高等教育」の 3 つの部分からなる教育部門計画について述べられ、また、新しい教育構造である 1-6-6 システムについても言及されました。さらに、ナショナル・プランニング・フレームワークについて、グローバル、ナショナル・スクール・レベルの 3 つの視点から述べられ、ナショナル・エデュケーション・プランが国の教育政策の改善に大きな役割を果たしていることが紹介されました。最後に、政策がどのように評価されるかについて説明がありました。

質疑応答では、「JICA はスタンダードベースのカリキュラムで何を指そうとしているのか」という質問がされ、そのことについてプレゼンの中では話されませんでした。カリキュラムとは何かということを知り、子供たちの学びのために深みのあるカリキュラムが必要であることが分かりました。その点、お手本にした日本の実践は必要な条件が満たされていた、という回答がされました。



## 10月21日 Country Report Group2

第1週、Group2では研修員2人によるプレゼンテーションが行われました。また、プレゼンテーションを受けた質疑応答や意見の交換が行われました。

### 【レソト】

一つ目は「レソトの国別報告書」に関して、レソトの教育システムの簡単な説明から始まり、教育の質による問題が3つ挙げられました。一つは、男女による就学率の割合の違いと学年が上がるにつれて退学者の割合が増加していることが問題点として指摘されました。それに対して、教育費や教育への投資の不足を退学率の増加の理由と位置づけています。二つ目は農村部の貧しい少年たちの留年率の影響を指摘しています。三つ目にCOVID 19による教育現場への影響が教育の質の観点から述べられました。また、レソトにおける事例に基づいた教育政策の方策についてのプロセスや、実際に行われた退学率・留年率の低下への方策を紹介しました。さらに、質疑応答では Grade1 から Grade7 への就学率の低下の理由を尋ねるなど、研修員同士での活発な議論が行われました。

### 【パキスタン】

二つ目は「パキスタンの国別報告書」に関して、まずパキスタンにおける現在の社会経済の状況が COVID19 を踏まえて述べられました。次にパキスタンの教育分野について、平等性の欠如、情報の少なさ、低予算、時代遅れのカリキュラム、女性の就学率の低さなどの問題が挙げられました。国内における教育の現状について、地域や男女差など現在取り組まれている方策についても紹介されました。政府による教育の政策として、ユネスコやSDG4の取り組みに触れています。最後に Sindh で実際に成功した事例を紹介し、SELDの取り組みやKPI開発のためのワークショップについて述べました。質疑応答ではパキスタンからの別の参加者から、現在は以前のような差別はなくこれまでの考えが変わってきていると、追加の説明がありました。

会議の終わりに、吉田先生から今後、より良い研修となるために会議では様々な意見がプレゼンテーションを通して上がるが、批判的ではなく学びに変えようというお言葉を頂きました。オンラインで行われたため、質問がマイクから聞こえにくいなどのトラブルもありましたが、チャットを用いるなどしてお互いの質問を共有しました。

